



## 校長室だより～湘南の空～

第14号

令和4年11月28日

11月10日（木）、対組競技の最後を飾る駅伝は、穏やかな晴天の中、選手、応援が一体となる素晴らしい大会だった。湘南の風を横浜に存分に吹き渡らせたと思う。運動部連合委員会を始め、準備・運営した生徒、教員の皆さんに心から感謝したい。湘南生の今後の挑戦を心より楽しみにしている。

改めて、基礎から積み上げて高みを目指してほしい。

### 二人のアスリートの引退

2018年平昌冬季五輪スピードスケート女子500メートルの金メダリストで、10月22日の全日本距離別選手権の同種目を最後に現役を引退した小平奈緒さん（36、相沢病院）が10月27日、東京都内で記者会見し、「目標に順位や記録はあったが、それは手段。目的である唯一無二の自己表現は全うできた」と競技人生を振り返った。（日本経済新聞 10月28日）

小平さんは、スケートを応援してくれる人々に勇気を与える、憧れの存在だった。目的を「唯一無二の自己表現」に置いていたからこそ、結果に満足することなく向上心を持ち続け、長年トップ選手として活躍でき、私たちに夢を与えてくれたのではなかろうか。

同日付の報知新聞はヤクルトの宮台康平さん（89回）の引退を報じた。「宮台さんは東大史上6人目のプロ野球選手として2017年ドラフト7位で日本ハムに入団。同1位の清宮とともに注目され、18年8月23日・ソフトバンク戦でプロ初登板した。20年オフに戦力外通告を受けて育成選手契約を打診されたが、断りを入れて自由契約に。同年の12球団合同トライアウトを受験し、支配下選手登録でヤクルトに加入した。（中略）10月27日も、みやざきフェニックス・リーグの巨人戦で9回から救援登板し、最速149キロを計測するなど1イニングを無失点。」最後まで、最も困難な道に挑戦し続けた宮台さんに敬意を表したい。真つすぐな挑戦は人々の心を動かし、やがて未来を変える力になるに違いない。宮台さんの第2の人生での活躍にも注目したい。

## 知性の翼・情熱の翼 人の二面性

昭和を代表する日本画家東山魁夷は、「残照」（1947年）を描いた頃、「自己を深く見つめ、自然を静かに見つめて、そこに通い合う微妙な響きを画面の上に、きめ細かに描きあらわそうとする態度に向きつつあった。」

（「風景との対話」東山魁夷著 新潮社）

こうした「自己－自然」のような二面性の協調と対立が人間の深みと広がりを生み出すのではないか。

本校正門そばにある Mosaic mural 「飛翔」の副題は「限りなき可能性への挑戦」 “Challenging possibilities” だ。画家である本校 41 回生の廣田雷風（ひろた らいふ）さんのこの作品は、湘友会による湘南高校創立 100 周年記念事業として、2021 年 5 月 1 日に寄贈された。二面ある壁画は東側が「知性の翼」、西側が「情熱の翼」である。廣田さんは「自分自身の人生を振り返ってみると様々な二面性の協調と対立の中にあつたように思い、なおかつ現在も変わりません。在校生の将来に語り掛けるエールとして、知性の中に情熱の支えがあり情熱の中に知性の閃きがある未来を願い制作しました。」

生徒の皆さんは、両翼の傍を通る度に、知性と情熱を高めているのではないか。私は、皆さんが、力強く時に優雅に世界の空を飛翔する日を夢見ている。

[残照 \(higashiyama-kaii.or.jp\)](http://higashiyama-kaii.or.jp) (東山魁夷記念一般社団法人)